

卒業論文の要旨

論文題目	広告業界における労働環境の特異性についての一考察
氏名	田中 愛美花
メジャー	メディア (ジャーナリズム)
(要旨)	
<p>本稿の目的は 2 つある。第一に現状広告業界における労働環境の改善がどのように行われているのかを明らかにすること。第二に、既存の調査研究結果及び比較研究から、広告業界特有の体質を見出し、どのような要因が労働環境の悪化をもたらすのかを考察することである。</p> <p>第 1 章で、本稿における広告業界の定義をしたうえで、アンケートをもとに現状の労働環境について考察する。その中では業界特有の特徴として「長時間労働を美德とする文化」「発注先からの過度な要請」「制作物の属人性の高さ」の 3 点を挙げた。</p> <p>第 2 章では、なぜ上記 3 点のような特徴が挙げられるのか、仕事の流れをもとに考察をした。そこからクライアントを頂点とするヒエラルキー構造の関係性や、取引形態がコミッション制であることが、特に一番下の広告制作会社の労働環境悪化をもたらしていることが推測された。</p> <p>第 3 章では、広告業界と仕事の性質として共通する点のある業界 IT 業界、その中で特にシステムエンジニアに焦点を当て、仕事内容や流れを踏まえたうえで労働環境を比較した。その結果、IT 業界も広告業界同様に長時間労働が問題となっているが、報酬形態がフィー制であり、初期にて仕事内容を定義した交渉を行えばより改善できることが分かった。そのため、広告業界の労働環境改善には、コミッション制が「発注先からの過度な要請」をもたらしていることが改めて明らかとなった。</p> <p>第 4 章では労働環境を整えたうえで売り上げを伸ばし続ける企業である(株)揚羽にインタビューを行った。その結果、取引先と接する労働者が長時間をかけてでも良いものを作りたいという意識があること、そのうえで、会社側がけん引して労働環境を改善することで、3 年間の間に大きく労働環境が改善され、従業員の意識も変化してきていた。また、企業としても売り上げを伸ばす事に成功していることが分かった。</p> <p>第 5 章では本調査結果に対する、まとめと考察を行った。「長時間労働を美德とする文化」は、今後変化しなくなっていく可能性が高いのではないかと推測できた。</p> <p>「発注先からの過度な要請」は、現状のコミッション制かつ明細をクローズドにして請求することが大きく関係していると考えられ、現状の予算規模の小さく粗利が少ない中、競合他社が多く代替が起りやすい環境が、過度な要求をされたときに受けざるを得ないこととなっていることが考えられる。「制作物の属人性の高さ」は、属人性の高いクリエイティブな仕事以外の時間短縮に取り組む企業が増えている。これらは今後多くの企業が導入することが推測されるが、長時間労働を解決する上では、業務量の多さが問題のため、会社での労働環境改善のための制度や採用を増やすなど、多角的な対策を企業主導で行う必要がある。これらを踏まえたうえで、今後の課題として、「発注先からの過度な要求」の対策として考えられる方法として取引をオープン・ビリング請求にするがあるが、この変</p>	

更などは業界全体で一斉に変わる動きが無ければ難しいことが推測される。また、広告業界の労働環境を改善するには、取引先である他業界との対等な関係性づくりが必要になり、この変化が今後の重要な課題である。

(指導教員の推薦のコメント)

この卒業論文が「優秀」とであると評価できる理由は、以下の3点である。

1) 身近な疑問からの着想

田中君はかねてから「社会のなかでの広告の役割」に関心を持っていた。自身の就職先としても広告関連業界を視野に入れて活動していた。それだけに、2015年12月の電通の女性若手社員の自殺事件と、その後の我が国における「働き方改革」に関する議論は、田中君にとって非常に身近な社会問題であった。

2) 具体例に基づいていること

広告制作関連で働く人の働き方や制作物の値段の決め方には非常に不透明な部分が多いが、業界誌の記事や関係者へのインタビューなどを使いながらできるだけ具体的な情報をもとに考察を心掛けている。

3) わかりやすい論理立て

各章で何を述べるのか、各章間がどのように関係するのかを意識しながら論文をまとめている。

以上